

2009年度

科目名	仏教学A			
担当教員	貫名 讓			
配当	文 1・教育1・人間1	コード	25060	
開期	前期	講時	火曜日5限	単位数
授業テーマ	『歎異抄』にみられる親鸞の仏教観			
目的と概要	親鸞に大きな感銘を受けた唯円によって著された『歎異抄』を読みながら、その中に表される親鸞の仏教観をうかがっていきたいと思います。『歎異抄』は親鸞の書いたものではありませんが、前半部分は親鸞の言葉として表されていますので、言葉の一つ一つに親鸞の心が如実に表されていると思います。後半部分は、親鸞の教えを唯円なりの解釈でもって表現していきます。前半の文章も後半の文章も、それらは、現代にも生き生きとして語りかけているように感じられます。本講義では、『歎異抄』の前半部分(第1条～第10条)を読みながら、親鸞の仏教観に触れてみたいと思います。			
成績評価法	総合評価(平常点・レポート課題の提出)			
テキスト	歎異抄／梯 實圓解説／本願寺出版社編			
参考書				
履修に当たっての注意・助言				
講義計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション: 講義概要と講義の進め方 2. 『歎異抄』の概略 3. 序: 唯円の思い 4. 第1条: 信じる心とは 5. 第2条: よきひとのおほせを聞いていく 6. 第3条: 善人よりも悪人の方が救われる(!?) 7. 第4条: 小さな慈悲と大きな慈悲 8. 第5条: 念仏は先祖供養ではない 9. 第6条: 私(親鸞)には弟子は一人もいない 10. 第7条: 念仏者は何ものにも妨げられない 11. 第8条: 念仏は私のものではない 12. 第9条: 念仏を称えても喜びの心がわいてこないのはなぜ? 13. 第10条: ありのままの心 14. まとめ 15. 課題 				